

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ふれあいの里 グループホームとみおか 2F	評価実施年月日	平成21年2月20日
評価実施構成員氏名	工藤 正子 成田 瞳 加土 春江 木村 広子 得地 麻美 平井 由紀 奈良 輝		
記録者氏名	工藤 正子	記録年月日	平成21年3月10日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着サービスを職員全員で確認し合い、地域生活の継続を支えるための事業理念を理解するよう努める</p>	○	<p>理念に基づいた地域との関係性の強化に努める。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々の生活の中で言葉づけ、態度等などに理念が反映されていると思われるが、さらに話し合いや確認するよう統一を図っていきたい。</p>	○	<p>日々利用者に関わる際に、理念を具体化していく事を意識して取り組むよう努める。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には、訪問時などにわかりやすく伝えていき、又、地域住民にたいしても、事業所の理念役割を伝えていく機会を作っていく。</p>	○	<p>地域への多様な機会を利用してわかりやすく説明していきたい。ホーム便りなどを活用していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の方たちとは、挨拶を交わす程度なので、今後気楽に立ち寄ってもらえるよう努めたい。</p>	○	<p>回覧版を回すなど近隣の方との関係を築いていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会には、加入しているが地域の行事などに参加する事は、なかった。今後は、積極的に参加していきたい。</p>	○	<p>地域の行事などに参加し、地域で必要とされる活動や役割を担ってよう努める</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域との交流が少なく取り組めてない。</p>	○	<p>地域の会合等に関わりながら地域密着型のサービスとして何ができるのか、また、協力してもらえるのか話し合い取り組みたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行い、サービスの質を高め目的をもって取り組むようにしている	○	評価の結果は、ミーティングで報告し改善に向けて検討していきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	まだ、運営推進会議は、行っていない	○	スタッフが揃いしだい運営推進会議を開き、会議メンバーからの意見を改善に向けた取り組みにつなげていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者と共に、協力関係を築き情報提供を共有したい	○	市町村担当との関係作りに向けた取り組みをしていきたい
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	理解していない職員が多いと感じる	○	勉強会、研修などで、理解を深めるよう努める
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	講習会、ミーティング等で高齢者虐待防止関連法に関する理解、浸透を図りたい	○	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち理解浸透を図りたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約解約をする際に時間を十分にとり説明し、不安疑問を解決し納得を得た上で、手続きを進めていきたい		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉、態度からその思いを察するように心がけ、利用者本位の運営に心がけている		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の来訪時には、利用者の状況などを伝える機会を作るよう心がけている。金銭管理は、出納帳に記入しご家族に毎月お渡ししている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族等には、電話や訪問時、何でも言ってもらえるよう雰囲気作りに留意し、出された意見要望等は、ミーティングなどで話し合い日々改善に努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ月に一度カンファレンスをしているが、不満苦情等は、把握しきれていない可能性もある。	○	不満苦情は、言い難い部分も多いので、コミュニケーションにより問いかけ聞き出していきよう心がけていく。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	人員不足で無理のないローテーションを組むのが難しい。人員不足の為、利用者との対応が不十分にならないよう努めている	○	職員が揃い、利用者の状態やペースに合わせたローテーションが組めるよう努める
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者と職員の馴染みの関係を重視し、職員交代による利用者のダメージを最小限に抑えるよう努めている。	○	離職するスタッフの理由の中に、職場としての改善が必要な場合は、改善し次につなげるよう取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	事業所外で開催される研修にできるだけ多くの職員が受講できるように努めたい。	○	研修報告を全職員が観覧できるようにし、会議などで発表してもらい、職員全員が共有できるようにしたい
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	区内の連絡会議、勉強会などにできるだけ参加していきたい。	○	地域の同業者と交流する機会をもち勉強会、訪問等ができるよう取り組んでいきたい
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	人員不足でのストレス、過労が多い	○	ストレス疲労に気配りし、勤務時間中に気分転換できるよう人間関係休憩時間を確保したい。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	職員の健康診断を実施し心身の健康診断を保つために対応している	○	個人のレベルに合った研修を受講しスキルアップを図り意欲の向上に努めたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居相談から、入居に至るまでに家族とも良く話し合い、本人の安心と関係作りに努め、求めている事を把握し支援するよう工夫している		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	ご家族が求めているものを理解し、ゆっくり話しを聞き状況を把握し、信頼関係を築くようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前本人やご家族の実情、要望をも確認し内容により必要なサービスにつなげるようにしている	○	相談時本人、ご家族の要望をもとに、できる限り必要なサービスをつなげていきたい
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人やご家族が事業所を見学してもらうことから始め職員や入居者と徐々に馴染めるよう努める	○	ご家族等と十分に話し合い、本人が安心納得をし、サービス利用ができるよう支援していきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の出来る事、興味のある事等の見極めをし、行ってもらい、共に共感協力し合える関係作りに努めている		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えていく協力関係が築けるよう努めている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族、本人の思いや状況を見極めながら行事にご家族を誘ったり、こまめに報告、相談し、よりよい関係の継続に努めている		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご家族の協力を得ながら行きつけの美容室に行ったり、墓参りをしている。今までの生活での馴染みの知人、友人等に訪問していただけるよう努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別に話を聴いたり、相談にのったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをしている。また、心身の状態や感情で日々変化する事もあるので注意深く見守るようにしている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	状態変化により退室された方も含め、今までの関係性を大切にし長期継続的なフォローをするよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声かけ、言葉や表情などからその真意を推しはかるよう努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや、家族関係者などの来訪時など少しずつ把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを理解、把握すると共に、生活、心理面の視点やできない事よりできる事に注目し、その方全体の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人やご家族には、日々のかかわりの中で、要望、意見を聞き、反映させて介護計画書を作成していきたい	○	利用者一人ひとりのその時点に沿った具体的な計画を作成していきたい。また、利用者が自分らしく暮らせるよう本人、家族の要望を聴き、アセスメントを含めスタッフ全員で話し合い介護計画作成に活かしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	今までの計画をふまえ現状にそくした介護計画を作っていくたい	○	今後は本人、家族関係から意見を聴き最大限にその時々のおづきや意見が反映されるようつとめる
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、おづきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意し食事、水分量、排泄量、身体状況及び日々の暮らしの様子等を記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにしている。また、申し送りノート確認は勤務開始前の確認義務付けしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々のお望みに応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、ご家族の状況お望みに応じ臨機応変かつ柔軟に対応し、入居者の満足をお高めよう努力している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人のお意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられよう警察や民生委員と意見交換をする機会を設けていきたい	○	本人と地域とのさまざまな接点を見出しボランティアへの協力を呼びかけていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人のお意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人のお望みに応じて訪問理美容サービスを利用してもらっている	○	利用者の状況や希望に応じてボランティア等の見守り支援など利用できるよう支援していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人のお意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を開催し地域包括センターの職員に参加していただき、これをきっかけに関係が強化されるよう努める	○	周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週に一度訪問診療を受けている。また、受診や通院は本人やご家族の希望に応じて対応している		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	一年に1回は、認知度を確認するため家族に受診を勧めている		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問診療で来て下さっている看護師に日々の健康管理や医療面での相談、助言、対応をしてもらっている		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、本人のダメージを極力防ぐため、情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。また、ご家族とも、情報交換しながら、病院関係者等々と早く退院できる支援をしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現段階では、当ホームで週末を迎えられた方は、おらず実績としてはない	○	本人、ご家族、関係者等と話し合い、重度化に伴う意思確認書を作成していきたい
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現段階では、当ホームで週末を迎えられた方は、おらず実績としてはない	○	本人やご家族が安心してサービスを利用できるよう、本人、ご家族の気持ち意向を大切に、納得した最期を迎えられるよう取り組みたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。		○	他の事業所に移られた場合など、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境支援の内容、注意が必要な点について十分な話し合い、情報交換を行いたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人記録に他入居者様の名前を記述してない。日々の係わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応をより徹底していきたい	○	申し送りノートやミーティング時などで全職員に再確認してもらうように勤める
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者に合わせて声掛け、表情を読み取ったりし、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作るよう心づけている		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れは、持っているが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら職員同士が工夫し柔軟に対応するよう心づけている		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	一ヶ月に一度理髪店が来訪し、希望者のみ行き、馴染みの美容室に行ったり身内の方が対応したりし、日々の生活習慣に合わせて支援している		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、後片付けなど利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事を楽しむ、雰囲気作りを心づけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの好みや意向を大切に、ご本人の様子や時間をみながら、それらを楽しめる様、支援している。タバコは、時間を決めてだが、他入居者様の迷惑にならない様、換気の良い場で吸えるよう配慮している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、トイレ誘導をする事でトイレで、排泄できるよう支援している。オムツ使用の利用者には、排泄パターンを把握してトイレ誘導をするようにしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員が一方的に決めず、利用者の体調や希望にそって入浴していただくよう支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々、記録を基に、睡眠パターンを把握し、不眠の対応、生活リズム作りを行っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの気持ちや力を活かした生活プログラムを支援するようになっている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人で希望者している方のみだが、お金を所持している。利用者一人ひとりの希望や力に応じて、金銭管理の支援に取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の気分や希望、季節、天気など状況に応じて外出を楽しめるよう努めている	○	一人ひとりの習慣や楽しみ事に合わせられるよう、外出を支援していきたい
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりの思いや願いを叶えられるよう利用者、家族と相談し協力を得ながら実現に向けて取り組みをしていきたい	○	職員、家族等で検討し実現に向けて取り組みたい
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一人ひとりの手紙や電話の習慣、希望、有する力に応じて支援している	○	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りに努めたい
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族、知人、友人等が遠慮なくゆっくり過ごせる雰囲気作りに配慮している		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々の申し送り時等でその日のケアを振り返り、身体拘束のないケアに取り組んでいる		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員の見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくする事で、日中玄関に鍵をかけずに安心して過ごせるよう支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者と同じ空間で、利用者の様子を把握し、安全に配慮している。夜間は、二時間ごとに利用者の様子を確認し何かあってもすぐ対応できる場所の工夫をしている		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は、何かを職員で把握し、ケースに応じた対応をしている		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故発生した場合は、事故報告を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し家族への説明と報告を行っている		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	行政関係者や消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施し、全職員が対応できるよう努める。夜間の緊急対応については、マニュアルを整備し周知徹底を図っている		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアル作成し、避難訓練をおこなっているが、地域の協力体制は、とれていない	○	地域の交流を多くし、自治会などをお願いしたり運営推進委員会議を開催し協力を呼びかけたい
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	様々な役割活動や外出により、リスクが高くなるものの、圧迫感のない自由な暮らしを利用者の表情を明るくしている事をご家族に見てもらったり、具体的に説明するよう努める		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員は、一人ひとりの普段の様子を把握しており少しでも、変化や異常の兆候に気づいた時は、バイタルチェックを行い、記録をつけ、状況によっては、医療につなげる		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを個々に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。本人の状態の経過や変化等に関する記録をとり、医療関係者に情報提供している		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一人ひとりの一日の暮らし全体の中で、食事、排泄、活動状態を見直し、自然排便を促す工夫をしている。また、下剤を使用している場合は、個々の状態にあわせた使用量、頻度で対応している		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行い就寝前は、義歯の洗浄を行っている		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を毎月チェック表に記録し職員が情報を共有している。管理栄養士が作ったメニューなので、栄養のバランスも良い		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、早期発見、対応に努めている。利用者およびご家族に同意をいただき職員共々インフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策としてペーパータオル使用する等、予防も徹底している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日まな板、布巾を漂白、清潔に心掛けている。冷蔵庫も点検、掃除し食材チェックし鮮度や状態を確認している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気玄関になる様、花壇に花を植えたり、季節感を演出している	○	地域の方が気楽に訪ねられるような工夫を行っていきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節毎に、装飾を壁やドワにほどこし季節感を取り入れている。調理の音や匂いで、清潔感があり、リビングに居ても暮らしの場であるという工夫がなされている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングが広く、気の合った利用者同士で思い思いにくつろげるスペースを作っている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真、タンスなど使い慣れた日用品が居室にあり、利用者の居心地の良さに配慮している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度や湿度の調節は、利用者一人ひとりの状態に配慮して調節をするようにしている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し安全確保と自立への配慮をしている		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の状況に合わせて環境整備に努めている		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	車椅子の方も外出しやすいよう玄関横にスロープや駐車場があり、利用者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ○④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)入居者、職員が毎日笑顔で過ごせるよう日々心掛けています。また、地域の方々共に支え合いながら地域密着したホームになるよう目指しています